

令和3年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(花園中学校)

平均正答率

(単位 %)

教科	国語			数学			英語	
	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
花園中	58.1	56.9	64.6	55.7	58.1	57.1	54.9	58.7
埼玉県	61.3	63.1	68.1	59.4	59.1	58.1	62.6	60.0

質問紙調査より

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値

(単位 %)

	質問事項	中1		中2		中3	
		花園中	埼玉県	花園中	埼玉県	花園中	埼玉県
生活習慣	・脱いだ履き物のかかとをそろえる	88.5	89.9	92.7	91.0	95.8	92.5
	・だれに対しても進んで挨拶をすることができる	93.8	82.8	93.6	82.6	91.5	84.2
	・相手の気持ちやその場の状況を考え、やさしい言葉づかいができる	92.9	87.3	87.2	87.4	94.1	90.3
学習習慣	・学校の宿題をしている	98.3	96.7	94.5	93.0	97.4	92.5
	・学校の授業の予習や復習をしている	95.6	80.7	83.5	69.5	79.7	68.6
	・平日、学校の授業時間以外に1時間以上勉強している	90.4	74.0	79.9	71.3	85.5	78.4
学習等への関心	・勉強することが楽しい、好き(勉強する理由として)	56.6	50.7	48.6	37.7	34.7	35.4
	・勉強は将来の進学や就職に役に立つ(勉強する理由として)	95.5	94.1	97.2	94.4	100.0	95.3
	・地域の歴史や自然に関心をもっている	71.6	59.8	60.6	44.2	47.5	40.4
その他	・自分には、よいところがある	80.6	76.5	78.0	72.4	73.7	69.7
	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	77.9	76.0	73.4	67.8	68.6	69.2
	・将来の夢や目標をもっている	89.3	83.6	77.9	73.3	81.3	69.8

花園中の「よかった点 (○)」と「課題 (●)」

【国語】

- 書く問題については、無回答率も低く、意欲的に取り組んでいる(2・3年)。
- 要旨を読み取る問題などはある程度できている(全学年)。
- 文の構成理解につまずきが見られ、述語に対する主語を文中から書き抜くことに課題がある(1年)。
- インタビューの仕方の工夫、聞き手の立場に立ってわかりやすく話す工夫など話す力に課題が見られる(1・3年)。
- 敬体、常体の不統一を正し、よりよい表現に直して書くことに課題がある(2年)。

【数学】

- 「数と式」「関数」において県平均を上回ることができた。特に関数についてはどの問題の正答率も県平均を上回っている(3年)。
- 「数と式」「図形」において県平均を上回ることができた。特に方程式を解く問題、自然数を選ぶ問題については県平均を20ポイント以上上回っている(2年)。
- 縮図の理解度が高く、正答率も90%を超えている(1年)。
- 「資料の活用」の正答率が低く、特に新しい分野の箱ひげ図についての理解度が低い(3年)。
- 「関数」の正答率が低く、問題によっては無回答の生徒も多い(2年)。
- 「データの活用」の正答率が低く、最頻値を求める問題を苦手としている生徒が多い(1年)。

【英語】

- 「聞くこと」に関しては全体的に無回答率も低く高い傾向にある。
- 「書くこと」は無回答率もあがり苦手になっている生徒が多い。

【質問紙】

- 自己認識や忍耐力などの非認知能力が高い。
- 郷土に対する興味関心が高い。
- 家庭での学習時間が確保され、学校の宿題や予習・復習を行っている生徒が多い一方で、学習の成果に結びついていない。

【国語】

- ・作文を書かせる際に、推敲の時間や交流の時間を取り、適切な表現になっているか振り返る時間をとる。
- ・あらゆる立場での、話す・聞く工夫ができる言語活動を設定する

【数学】

- ・基礎、基本の定着のために、朝自習、授業、補習などで繰り返し問題演習を行う。
- ・説明の場면을意図的に増やす授業展開にしていく。
- ・多くのタイプの問題を解き、より理解力を深めていく。

【英語】

- ・「聞くこと」から「読むこと」「書くこと」につなげる活動を増やし、生徒の「読むこと」「書くこと」の苦手意識を軽減していく。学年が上がるにつれ、音声面への依存を少しずつ減らしていく。
- ・2学年は自信がなく「間違えるなら書かない」と未回答になってしまう生徒も多いので、間違えてもいいので挑戦する姿勢を養っていく。

【その他】

- ・深谷の子「6つの誓い」を意識させ、学校・家庭とともに「当たり前のことを当たり前でできる」生徒の育成を目指す。
- ・コロナ渦においても、さらに非認知能力を高めていく学級経営や学校行事・学年行事等の企画検討ならびに実施。
- ・1日1ページ以上の家庭学習を課すとともに、各生徒の家庭学習ノートを参考にするなどして「家庭学習の内容・仕方」を振り返らせ、質の向上を図っていく。